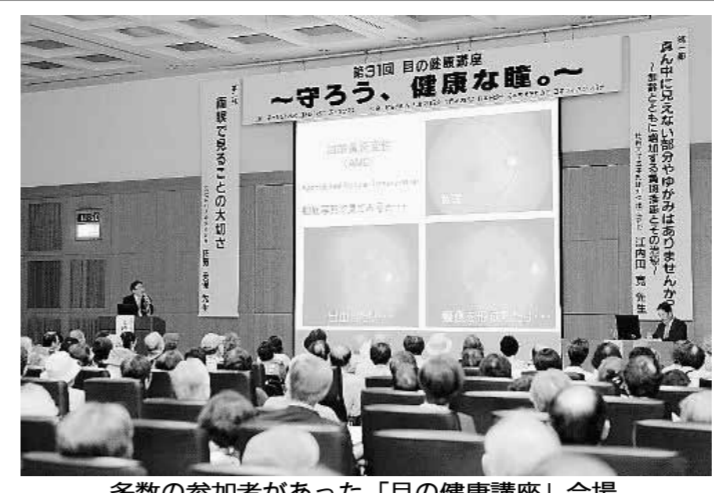


「目の愛護デー」(10月10日)を前に、第31回「目の健康講座」(福岡県眼科協会など主催)が8月29日、福岡市天神のアクロス福岡で開かれた。

目の健康講座

患を中心に講演。第2部は福岡県眼科協会の吉富文昭会長が座長となり、浜松医科大学医学部病院教授の佐藤美保氏が斜視をテーマに講演した。会場では日本アイバンク協会創立50周年事業として制作されたアイバンク活動啓発のDVD「ヒ・カ・リ」を上映し、同協会の活動をアピールした。



多数の参加者があった「目の健康講座」会場
=8月29日、福岡市・天神のアクロス福岡

～つなごう光のリレー～

アイバンク登録のお願い

角膜移植は光のリレーとも呼ばれ、今まで見えなかった人が再び光を取り戻す手術です。この愛のリレーを支援する組織がアイバンクで、全国には54あり、福岡県内では同県医師会アイバンク、久留米大学アイバンクがあります。2014年度の角膜登録者は1万1510人、献眼者は880人でした。これに対して献眼を待っている人は1836人で、この数年は千人前後が待機中です。実は1年間の手術の40%は、海外から輸入された角膜に頼っているのが実情です。やがて、この輸入も難しくなります。献眼数が不足しています。一人でも多くのご登録をお願いいたします。

主催 福岡県眼科協会、日本眼科協会、西日本新聞社
後援 厚生労働省、九州眼科協会、福岡県医師会、日本医師会、日本失明予防協会、日本アイバンク協会

目を守り豊かな人生

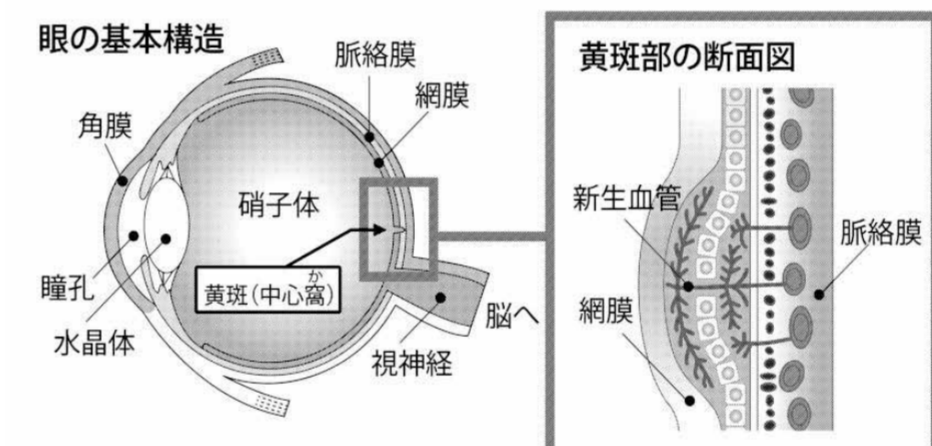
佐賀大医学部眼科学講座教授 江内田 寛氏



えないだ・ひろし 1994年、福島県立医科大学。九州大医学部研究助手(眼科学分野)、同講師を経て2007年、国立病院機構九州医療センター眼科部長・科長。11年、九州大医学部研究講師。14年から佐賀大医学部眼科学講座教授。専門は網膜硝子体(糖尿病網膜症、網膜剥離、黄斑上膜、黄斑円孔などの疾患)、硝子体手術。

増加傾向の黄斑変性 食事の見直しで予防可能

網膜は取り換えられず 菅井 江内田教授は網膜硝子体の臨床家で手術でも著名な方だ。江内田 目の構造は昔のカメラに例えられる。光はレンズ(水晶体)を膜や視神経は取り換えが通して最終的にフィルムに当たる網膜に投影される。視力低下の原因は主に①フィルムにヒートが合っていない(近視や遠視)②フィルムに光が届かない(白内障)③フィルム(網膜)や視神経に障害がある④の3つに分類される。①②の場合は眼鏡や白内障手術で治せる。ところが、網膜硝子体という。この黄斑の疾患は①加齢黄斑変性②黄斑円孔③黄斑上膜の3つに絞られる。今回は決定的な治療法がない加齢黄斑変性を中心に述べたい。



黄斑部は黄斑に穴が開く病気で、光干渉断層計(OCT)による診察ですぐに見つかる。黄斑上膜は黄斑の上に膜が張り付く病気。それぞれ手術の技術が進歩しており、眼球に小さな穴を開けて手術することでほぼ完治するようになった。菅井 時々片目で見ると、きちんと見えているかどうか、チェックすることが大切なことを学んだ。日常の食事にも工夫したい。

浜松医科大学医学部病院教授 佐藤 美保氏



さとう・みほ 1986年、名古屋大医学部卒。92年、同大医学部大学院 外科系眼科学満了、博士(医学)取得。93年9月から95年3月まで、米国インディアナ大学小児眼科斜視部門留学。2002年7月、浜松医科大学医学部眼科学助教授(准教授)。11年1月から同大医学部付属病院教授。専門は小児眼科、弱視斜視。

片目の方が見やすい? 吉富 佐藤教授の専門は小児眼科、弱視斜視。皆さんの子や孫に関係が深い報告も聞けそう。佐藤 情報の85%は目から入っており、充実した生活を過ごすには、目が健康であることが大変重要だ。だが、何となく見づらくて不安がある。眼鏡が合っていない? 白内障? 斜視? などと考える。しかし片目を閉じてみると、両目で見るとより、よく見えるという人がいる。今回はそうした斜視の話をしていこう。

斜視原因、脳に異常も 治療で「見た目」すっきり 斜視を直すとは、両目で見るための疲れが少ない。さらに人前に出るのが楽しく、活動が増えて足が強く、健康寿命が延び、より豊かな人生を送ることにつながる。吉富 普段聞けない有益な話を伺え感謝する。来年からこの講座を充実した内容にした

第1部講演 真珠変性 真ん中に身えない部分やゆがみはありませぬか、加齢とともに増加する真珠変性とは?

PRのページ 眼内に注射する方法がある。ピンポイントで注射すると病巣が縮むが、薬価が高いのと、再び同じ病変が生じることがあるなどの問題点がある。予防法としては、生活習慣の見直しや、抗酸化ビタミンを多く含むホウレンソウなどの緑黄色野菜や、ミネラルが豊富なアサリなど貝類の摂取が効果的だという報告がある。炎症を抑えるオメガ3脂肪酸が多いサバ、イワシなどの青魚やサプリメントの摂取も有効だ。

広告5段